サリータ

L工校　四年二組
三浦　紗良

「サリータ。」

マリアは、いつも私のことを、そう呼んでいました。私の本当の名前は紗良―さら―ですが、メキシコでは、サリータには、リトル・サラという意味があるそうで、マリアも、マリアの弟も、私のことを「サリータ、サリータ。」と呼んでかわいがってくれました。

マリアは私のベビーシッターで、私が一才の時から、ずっと面どうを見てくれました。でも、私が八才の時に、メキシコに帰ってしまいました。

マリアが家族と一緒にメキシコに帰ってしまう日は、朝からず"っと二人ですごしました。最後に、

「きたアメリカにもど"って来るね。バーイ、サリータ。」

と、目に一ぱいなみだをためながら言って、行"ってしまいました。私も泣きそうだったけれど、一生けん命なみだをこらえました。

その年のクリスマスに、マリアから、家にプレゼントがとどきました。

マリアが帰"ったメキシコのプエブラという街で作られた、タラベラ焼きのティーセットでした。

私は、その内の一つ、小さなふたの付いた器をもらいました。青と白

のも様が付いたとてもきれいなという器で、私の大切な大切な宝物です。

あれから二年が経ちました。マリアは、まだアメリカにもどって来られません。だから、私の方から、マリアに会いに、プエブラに行こうと思います。次にマリアに会ったら、がまんしないで、今度こそ、思い切り泣きます。

私とトランペット

W校　四年一組
後藤　英璃子

私は九月から げん地校の音楽のじゅ業でトランペットを習っています。トランペットと聞いて、なんだ、三つしかボタンがないんだから、かんたんにふけるだろうと思う人が多いかもしれません。実は、私もどの楽器にするか決める時は、そう思っていました。けれど、それは考えがあますぎました。

学校が始まる前の八月から練習を始めようと思って、お母さんがパソコンでさがしてくれたトランペットをふいている人のビデオを見ました。

見た後、「ブー」と息をはけばできると思い、かるい気持ちでふきましたが、全然思うように音はでませんでした。ビデオでは、「プー」と高くて長い美しい音をかんたんそうにふいていましたが、私のふいた音はひくくてかすれていて、つばをはいているような音しかでませんでした。私はびっくりして、お母さんと顔を見合わせてわらいました。その日はトランペット本体を使って練習しましたが、よく調べてみると始めは本体から取り外せるマウスピースだけで練習をすることがわかりました。それを知って、私はすこしがっかりしましたが、トランペットは自分で

ふきたいと決めたし、上手になりたかったので、マウスピースだけを使った練習を続けました。それでも音さえでない日は、他の楽器にすればよかったと思う時もあります。そういう時は、トランペットを借りに行った時のことを思い出します。お父さんにずっと、

「トランペットを早く借りたいなぁ。」

とねだっていたので、すごくわくわくしていました。そして、金色に光る新品のトランペットを見て、深きゅうをし、また練習を始めます。

いよいよ始めてのレッスンの日になりました。私は、他の人ができて、私だけができなかったらどうしよう

という心配する気持ちと、先生に助けてもらって、がんばろうというやる気と両方ありました。トランペットを教えてくれる先生は、アドバイスをたくさんくれました。先生は私に、

「もっと息を速く長くふくと、いい音がでるよ。」

と教えてくれました。その日から次のレッスンまで毎日、口びるがかゆくなるまで練習をしました。二回目のレッスンの時、先生は息のふき方や口の形を教えてくれました。私は前よりも少しだけよい音がふけるようになったので、お母さんに聞かせると、お母さんは、

「少し高い音を出るようになったね

すごいね。この調子でやれば、上手になるよ。」

とほめてくれました。先生も私が高い音を出せると、すごくほめてくれます。そうすると私ももっとがんばろうと思い、さらに心をこめて練習することができます。まだうまくふけないので、たまに、弟から

「ブーって音が好きじゃないから、トランペットをふく時は、ふくよって言ってからにして。」

と言われて悲しくなりますが、学年の終わりには「ハッピーバースデー」の曲をふけるようになって、家族のたん生日にプレゼントしたいです。

ラジオ体そうと白い三角きん

L工校　四年一組
畑山悠太

ぼくのおばあちゃんは、北茨城の山のふもとの古くて大きな家に、ねこのマメとくらしています。

毎年夏休み三週間位このいなかの家で過ごします。ぼくのきらいな虫がたくさんいて、ツヤワーもなくて、セミとカエルの声がうるさいところですが、ぼくは世界一やさしいおばあちゃんに会いたくてこの家に行きます。

おばあちゃんは七十九才ですが、元気でよく働きます。毎朝六時に起きて、

16×16

「おばあちゃんは、ねむいです。」と、言いながらよろよろしています。が、六時半にラジオを持ってうら庭に行き、ラジオ体そうを始めると、急にシャキーンと元気になります。その後、八時におじさんの会社に仕事へ行きます。

おばあちゃんが仕事に行っている間、ぼくとお母さんとお姉ちゃんは、洗たくをしたり、宿題をしたり、買い物をしたりしています。五時半におばあちゃんが帰ってくるのが待ち遠しいです。五時半になって、おばあちゃんのノロノロ運転の車が庭に入って来ると、マメが山から吹っ飛んで帰って来て、ニャーニャーすり

寄り、ぼくは、
「おかえり」。
と言って、いろいろ話しかけます。
おばあちゃんは、
「おばあちゃんはくたくたです」。
と、くてっと居間にすわります。三十分位休んで、おばあちゃんは頭に白い三角きんをつけます。そうすると、またツヤキーンとなって、雨戸を開めたり、台所に立ったり元気になります。ラジオ体操と三角きんは、おばあちゃんを元気にする魔法です。
いつもぼくを、はずかしくなる位ほめてくれるおばあちゃん。ぼくの長い話も最後まで聞いてくれるおばあちゃんの働き者のスーパーおばあ

16×16

ちゃんの長生きしてほしいです。

16×16

新幹線のトイレ

W校　三年三組
安立　宙陽

僕はアメリカで生まれて、アメリカに住んでいます。アメリカの法律では、十三才以下の子どもは大人と一緒にいなければなりません。八才の僕は、いつも両親と一緒にいます。学校ではいつも先生と一緒です。映画館、友達の家、買い物、公園、どこでもいつでも親がいます。

夏休みに三週間、日本へ行きました。いつものように親と一緒に外を歩いていると、すれちがった子どもを見て父が言いました。

「あの子、宙陽と同じぐらいいやな

二

いる。

ふりむいて見ると、僕と同じぐらいの男の子が黄色い帽子をかぶり、大きなランドセルをせおい、重そうなバックを持って、一人で歩いていました。母に聞いてみると、日本では子どもを一人にすることが許されているようでした。僕はとてもおどろきました。学校から一人で歩いて帰ることなど想像したこともありませんでした。

日本にいる間だけでも自分一人でできることはないか、考えてみました。チャンスはありました。名古屋から鹿児島までの新幹線の中でのことです。母が僕に食べ終わったお弁

当のごみを拾ってくるように言いました。ごみ箱は車両と車両の間にあり、母がろは見えない所です。今まで一人で行動したことのない僕にとっては、大きな冒険でした。

無事にもどることができた僕は、生まれてはじめてトイレに一人で行くことを決心しました。両親に

「行ってくる。」

と言うと、母は不安そうな顔で何度も、

「大丈夫。」

と聞きました。父は笑いながら、ドアの閉めかや水の流し方を教えてくれました。僕は、一人でトイレに行けました。できたぞ。僕は、心の中

四

できました。一人でトイレに行けて、楽しかったです。その後、何度も一人で行くことができました。

これが、僕の夏休みの一番の思い出です。八年間、僕をトイレに連れていってくれた両親に感しゃします。アメリカにもどったので、あと五年よろしくお願いします。

16×16

うで時計と時き

W校　三年一組
小山　琴奈

わたしは、夏休みに新しいうで時計を買ってもらいました。自分でインターネットからさがして、日本に用事で帰ったお父さんに買ってきてもらいました。色は白色で、とってもきれいです。

この時計は、アメリカと日本の時間のりょう方をセットすることが出来ます。この時間のちがいは「時さ」という名前だということ、をお父さんに教えてもらいました。そういえば、アメリカにはじめて来た時に、同じ地きゅうに住んでいるのに、な

16×16

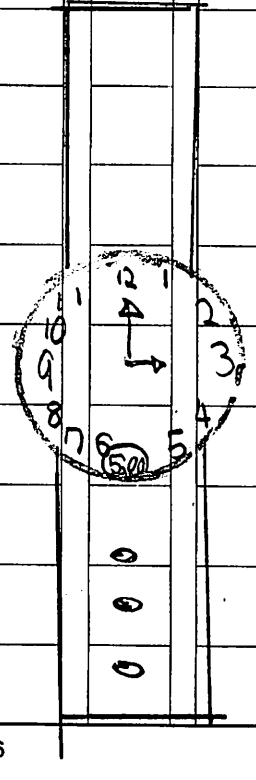
んで日本の朝とアメリカの朝は時間がちがうのだろうと思いました。

時さがあると、わたしはめいわくに思うことがあります。例えば、「時さボケ」です。はじめて休けんしたけど、夜のおそい時間にお昼みたいに目がさめて、遊びたくなってしまうし、昼間は、どんなに元気でも何をしていてもねてしまいました。日本にいる友だちに電話したいと思っても、向こうは朝早くだから、待たないといけないのもいやでした。

時さってなんだろうか調べてみました。時さがあるのは、地ゅうかれくて回転しているので、太陽の光が

当たる所と当たらない所があるから、お昼が日の当たる時間になるようにしてあるそうです。もし、時さがなくて、世界中が同じ時間だったら、たいへんなことになるそうです。

本当は、まだよくわからないけど日本とアメリカの時さだけじゃなくて、わたしが行ってみたいフランスにもどのくらいの時ざがあるのか、いつか新しいうで時計をつけてたしかめに行ってみたいです。



16×16

せんたくは、大へんだ！

1工校三年一組
上釜樹珠

お母さんは、よくせんたくをしています。ある日、あらっ、たせんたく物がかごに山もりになっているのを見ていたら、お母さんがいつもどれくらいせんたくをしているのかを知りたくなりました。そこで、家族全員が一週間に着る服の数を調べて表にし、お母さんが一週間にどれくらいせんたく物をしているのかを調べることにしました。

表の作り方は、まず、たてのらんに、家族四人の名前を書いて、よこのらんには、朝、昼、夜に着る服の

16×16

名前を書きます。たとえば、はだ着、シャツ、スカート、ズボン、パジャマなど。そして、表に、家族が一週間に着るまい数をそれぞれ入れていきました。たとえば、わたしのらんは、はだ着が七まい、お父さんのはだ着のらんも、わたしと同じ七まいというふうにです。

一週間に何まいせんたくするかを出す方ほうは、まず、かけ算か足し算をして、一人の一週間に着る服の数の合計を出した後、家族四人分を足して合計を出しました。一人ずつの合計は、わたしが七十二まい、妹が六十八まい、お父さんが四十九まい、お母さんが六十一まいで、家族

の一週間に着る服の合計まい数は、なんと、二百五十まいでした。

わたしは、お母さんが一週間で二百五十まいもせんたくするのは大へんだと思いました。今まで、わたしと妹は、色んな服に着がえる遊びをした時に、よくお母さんに、「ちょっ」とだけしか着ていない服をせんたく物のかごに入れないでー。と、おこられていました。その時は、何でダメなのかよくわかっていなかったけれど、今はせんたくがどれくらい大へんかわかったので、これからは、ほとんど着ていない服をせんたく物のかごにポンポン入れるのをやめようと思いました。そして、たた

お服の数も多いので、わたしもせんたく物をたたむお手つだいをしようと思いました。

わたしは、お母さんが一週間で二百五十まいせんたくまることに、とてもおどろきました。わたしは、お母さんが毎日一生けんめいせんたくをしてくれてうれしいです。お母さん、いつもたくさんせんたくをしてくれてありがとう。こんないいお母さんがいて、わたしはしあわせです。

はじめてのぼうけん

LI校　三年一組
阿多　恵玲奈

「いってくるね。」

私は、お父さんにぎゅっとハグをし、お母さんに一週間分のキスをして、わくわくしながらバスに乗りこみました。今年の夏、私ははじめて一週間のスリープアウェイキャンプに行きました。出発の何週間も前から、パンフレットを読みながら楽しみで仕方がありませんでした。お母さんと荷物をつめ始めるともっとと心がはずんできました。ねぶくろに着がえにお気に入りのまくらにスヌーピーのぬいぐるみも。スーツケースぱん

16×16

ぱんにつめこみました。

いよいよ出発の日が来ました。エンジンの音がしてバスが動き始めました。私はお父さんたちが見えなくなるまでずっと手をふっていました。これから私のぼうけんが始まります。長い間バスに乗りやっとフレンチウッズに着きました。

「わーい。」

思わず声を出してしまいました。外には見わたすかぎりいっぱいの木と、炎の様に赤い屋根のキャビンがたくさんあったからです。湖に続く道や、小川をわたる橋があり、まるで宝さがしのってしまうほどの広さでした。キャンプ場の地図は、

地図の様でした。道の所々にサーカス場、アスレチック、スケート場、シアターに乗馬場などがあり、何もかもが楽しそうでゆめの様でした。この一週間、宿題なしに一日中こんなに楽しいアクティビティができるなんて信じられませんでした。キャンプでは、毎日やるメインのアクティビティと日がわりでえらぶマイナーアクティビティがありました。中でも一番好きだったのは、アスレチックで、一本の細いロープにバランスをとりながらわたるスリルがいっぱいで、さいごはジップラインがあり、ものすごいスピードで顔に冷たい風があたって とても気もち良かっ

16×16

たです。夜はプールパーティーにカラオケナイトにバーベキューに毎日がパラダイスでした。

ところが何日かすると、お母さんに会いたくなってきました。友だちに手紙や小包がとどくのを見てもっとお家が恋しくなりました。でも次の日、私にもお母さんから手紙が来ました。私は食事の前やねる前に何度も読み返しました。そして待ちに待ったビジティングデーが来ました。

私は、お父さん達がいつ来るかなと朝からずっとワクワクしていました。昼食後、歩いているとどこからか日本語が聞こえてきました。私はもうスピードで走って行きお母さんにだ

きつきました。そしてキャンプ場をあん内してあげました。すると、

「これちゃんすごいね。全部自分で一週間やってきたんだね。がんばったね。」

とお父さんがほめてくれたので、私はほこらしく思いました。

私は、このキャンプでホームシックになって夜ないてしまったりしたけれど、友だちをいっぱい作ったり、一週間一人で何でもやっていつもはできない体けんをしたり、以前はできなかった事ができる様になったり、チャレンジいっぱいの一週間だったと思いました。こうして私のぼうけんは終わりました。

16×16

わたしの妹ありあ

W校　二年三組

パテル　杉浦　慶良

わたしには、五才のおもしろくてかわいい妹がいます。名前はありあです。ありあは、顔が小さくて、いつもきゃっ、きゃっとかわいくわらう女の子です。

わたしは、色んなことを妹といっしょにします。おまごとや学校ごっこやね

ん土をしてあそびます。テレビを見る時でも、となりにすわって同じプランケットにくるまって見ます。時どき同じふくをきることもあります。同じふくがない時は、同じ色やにているがらのふくを合わせます。たん生日もろ日ちがいで、かぞくでいわう時は、二人でたん生日せきにすわっておいわいをしてもらいます。

今年からありあがキンダーガーデンに入って、わたしと同じ学校になりました。わたしの友だちはみんな、ありあのことをかわいいと言ってくれます。ありあを見つけると、走ってかけよってみんなでかこみます。来年は、ほしゅう校のようじぶに入るよていなので、とってもたのしみです。

わたしの友だちは、未や

弟のことをじゃまだと言います。でも、わたしはそうは思いません。わたしは、#未ととってもいい友だちです。もちろん、ケンカもするけれど、すぐに仲直りします。「ごめんなさい」と言わなくても、気がつくと仲良しになっています。わたしは、いつもありがいて本当に良かったと思っています。#未がいなかったら

ら、いつもお#姉ちゃんがならいごとやおとまり会に行っている時は、一人でしずかにかなしそうにあそんでいると思います。わたしは、ありあのことが大大大#好きです。

たねをまいたら…

W校　二年三組
三輪拓磨

ぼくは、しょくぶつが大すきなので、自分が食べたすいかのたねをまきました。毎日水をあげたら、三日後にちゃんとめが出ました。ふつうの花と同じふたばでした。つぎは、つるが高くのびました。つぎに花がさきました。花の名前は二つ

12×12

あり、一つは男花、もう一つは女花です。花の色はりょう方とも同じ黄色でした。女花と男花のつなをじゃふんさせたら、女花のくきがふくらんでみがなりました。じゃふんとは、くきを五回くらいゆらすことです。本に書いてありました。ぼくは、すいかのみができはじめた時、とてもうれしかったです。お母さんには、め

が出ないよと言われたけれど、毎日一生けんめいおせ話をしたからめが出たんだと思います。

すいかのみは、本当は大きいけれど、そだったたみはぼくのチョリも小さかったです。みの色はみどりと黒のしましまもようです。形は、ちゃんと丸くてすいかの形でした。

家で妹といっしょにいすい

かわりをしました。すいかはとても小さかったのでなかなかぼうに当たらなくて、ちっともわれませんでした。目かくしはしませんでした。すいかをさいしょにわったのは妹でした。こんな小さいすいかわりは、はじめてだったけれど、とても楽しかったです。小さいすいかでも、食べてみたらあまくておいしかったです。すい

かは家でく四人で食べました。すいかをそだててみて、しょくぶつ図かんと同じことがたくさん書いてありました。また今ど、たねからしょくぶつをそだててみたいです。

マラソン大会

W校　二年一組

篠原　周成

九月のおわりに、マラソン大会に出場しました。ぼくがすむイーストチェスターの大会です。大人も子どももみんな、五キロ走ります。今年は、八百人くらいの人がさんかしました。

五キロが一体どれくらい長いのか分からず、ふあん

でした。ぼくがよく行く公園までと同じ長さと聞いても、まだ分かりません。ドキドキしながら、お父さんと一しょに走り出しました。

すぐにぼくの友だちは大いそぎでかけて行ってしまいました。ぼくは力をのこすため、ゆっくりかけ出しました。がんばるぞと思いながら。

だんだん、つかれてきま

した。道でおうえんする人
たちの声を聞くと、またカ
がわきました。あと少し、
もう少しと考えながら、む
中て走りました。

「ぼく、いがいにカがあ
るぞ。まだまだ行けるぞ」。

気がつくとお友だちをおい
ぬいていました。

ゴールして、ぼくはじゅ
んいが気になりました。十
二才い下の子どものぶで五

十四ばんでした。でも、同じ学年の人の中では、二ばんでした。ぼくはうれしくて、つかれもどこかへとんで行ってしまいました。

ぼくはうんどうかいのかけっこでは、力を出し切れませんでした。となりの子が気になってよこをむいてしまったからです。マラソンでは、前をむいて自分で自分をはげましながら、思い

きりはしれました。自分の力とにらめっこして、自分をしんじてさい後までやりぬくことの大切さに気がつきました。

来年は今の自分にまけないようにがんばります。ぜったい体にトロフィーもらうぞ。

おどろいたこと

W校　二年一組

にしお　あや

わたしは、アメリカにすんで半年がたちます。毎日アメリカの学校に行っていますが、おどろくことがいっぱいあります。

まずさいしょにアメリカの学校は、朝はじまるのがおそいです。かならずお母さんが学校の入口までおく

ってくれます。校内は、くつのままで入ります。教科書はありません。日本では、お友だちといっしょに朝早くランドセルをせおってとう校していました。校内では、うわばきにはきかえていました。

つぎにお昼ごはんです。アメリカのランチは、おべんとうをもっていくか、カフェテリアでサンドウィッ

チャハンバーガーを買って食べます。食べる時間はすごくみじかいので、食べきれないとゴミばこにすてます。それにくらべ日本では、きゅう食でした。校内にきゅう食室があったのであたたかいごはんを食べられます。食べる時間もたくさんあったので、ゆっくりとのこさず食べました。きゅう食を食べおわった後はおそ

うじをする時間がありました。アメリカの学校では、まだ一回もおそうじをしたことがありません。いつもだれがおそうじをしているのかふしぎです。

さい後に、わたしが一ばんおどろいたことは、アメリカの学校では、ランチの時にアイスクリームが買えたり、スナックタイムがあることです。これだけは、

せったいに日本の学校にはないのでびっくりしました。

このようにアメリカの学校と日本の学校はいろいろなところがちがっておどろくことばかりです。今のところわたしは、まだきゅうしょくがおいしい日本の学校の方がすきですが、アメリカの学校生活にも早くなれて楽しくすごしたいと思っています。

12×12

二ど目の体けん入学

L一校　二年一くみ

クラーク和馬

「またなくかなあ」。

ぼくの心ぞうはどきどきしていました。体けん入学のオリエンテーションの日、きょ年ないたことを思い出して、なみだが目にたまってきました。

今年七月、青木けん八戸し長じゃ小学校に今年で二

12×12

回目となる体けん入学をしました。ぼくは二年二くみでおにいちゃんのまさとは四年三くみです。月曜日から金曜日まで五日間通いました。

きょ年のぼくは、学校に行く前にないたり、トイレに行って少しなで、だれかに見られたらはずかしいのできました。どうしてかと言うと、だれのこども知らな

くて心細かったからです。

先生と友だちはやさしかった。

たし、きゅう食もおいしかった。

たし、べんきょうもよく分かったけれど、毎日なみだが出ました。それでも、いい思い出がたくさんできました。

今年は、ざりがにのタンクそうじやおにごっこ、みんなとあそんだジャングルジムの思い出が心にのこっ

ています。きょ年からなか
よしの友だちは、そうすけ
くん、とあくんとまさみち
くんです。とあくんとそう
すけくんとは、公園でもあ
そびました。今年も、すも
うでかちました。

今年学んだことは、さん
すうの水のかさと水えいで
す。ちょっとさむいプール
で、目をあらったり、
「しゃっこいん。」

とみんなで言いながら、つめたいシャワーをあびたり、プールのよこからよこまでおよげました。

そういえば今年なくかなと思ったけど、なきませんでした。

「ただいまー。」

と言った時ないている声ではなく、まだまだ元気がいっぱいのこえでいました。

しゅう中、しゅう中

L校　二年一組

アルク　海

「しゅう中、しゅう中、しゅう中」。

ぼくは、毎日お母さんに何回も言われます。「ごはんを食べる時、しゅくだいをする時、帰り道を歩いている時にもよく言われます。ぼくは、すきなことはずっとしゅう中できます。とくに、大すきなゲームをしている

時には、お母さんやお父さんがぼくの名前をよんでいても聞こえないくらいしゅうちゅうします。でも、なぜかうちゅうしますごはんを食べる時やしゅくだいをする時には、ほかのことが気になったりつまらないと思ったりするので、いすにずっとすわっていられません。そのたびに、お母さんやお父さんにおこられます。お母さんは、

「ちゃんとしゅうやすれば、
一時間でおわれるよ。しゅうやすみ
くだいがおわったら、その
後は海のすきなことがいっぱいできるよ。」
と言うのです。ぼくもわかっているけど、しゅうやすみは、
ぼくのてきです。どうやったらしゅうやすみでできるのかわからなくて、かなしい気もちになりました。どうやったらずっとすわることがた

のしくなるのかわかりませんでした。

ある日、ぼくの母さんがしゅくだいのもんだいをいっしょにやって、どっちが早く正しく書けるか、計算ができるかのゲームをしようと言いました。ぼくは、たのしそうだと思ってお母さんとしょうぶしました。えい語ではお母さんがスペルミスをしたのでぼくがかち

ました。算数では、お父さんにはかてませんでした。でも、しゅくだいの時間がすごくたのしくて、また、お父さんとしょうぶしたいと思いました。

しゅくだいはあまりすきではありません。だけど、もっとお母さんにかてるようにしゅう中できるようにがんばろうと思いました。

わたしのおかあさん

W校　一ねん四くみ

ナザリ　紗良

わたしのおかあさんは、やさしい。おふろあがりにかみのけをかわかしてくれる。わたしは、やさしいきもちになる。

わたしのおかあさんは、おもしろい。ほんをよんでくれるとき、いつもとちがうこえをだしたりする。わ

たしは、とてもうれしくなる。

わたしのおかあさんは、おこるとこわい。ほしゅう校のしゅくだいをやらないと、すごくおこる。

「おかあさんがやさしいうちにやりなさい！」

といって、こわいかおをする。わたしもくやしくて、こわいかおをする。

でも、わたしは、おかあ

さんがだいすき。
におかしものにいったり、
りょこうにいったり、とても
もたのしくて、やさしいきも
ちになる。

おわり

さかあがり

Wこう　一ねん四くみ
はやのゆうと

ぼくは、なつやすみにさかあがりができるようになりました。

八月十五日から十七日まで、にほんのおじいちゃんとおばあちゃんのいえのちかくのたいそうきょうしつにかよいました。

さいしょは、マットの上

でうしろでんぐりがえしを
して、キリタのれんしゅう
をしました。

つぎに、てつぼうでみぎ
あしをコーチのもっている
ボールにあてました。

さいごに、ひもにテープ
でとめてあるおりがみでつ
くられたたんざくをけって、
あしをたかくあげるれんし
ゅうをしました。

ふつかめには、ひとりで

さかあがりができるようになりました。

さかあがりがじょうずにできるコツは、

一、てのひらをぼうにおしつける。

二、うでにちからをいれてみぎあしをたかくけりあげる。

三、まわる。

です。

たくさんまわると、のど

がかわりてあせをかくけれどかぜがきてきもちがいいです。まわると、はんたいのけしきがみえておもしろいです。

つぎは、もっとはやくまわれるようになって、かぜをつくれるようになりたいです。

ぼくのいもうと

W校　一ねん二くみ

あんどう　しゅん

ぼくは、一ねんまえおにいちゃんになりました。いもうとのなまえはカはです。かほちゃんがうまれてうれしかったです。

せいかつもかわりました。かほちゃんにミルクをあげたり、おむつをかえたり、おかあさんはとてもいそがしそうです。

しくなったので、ぼくはおてつだいをしようとおもいました。かほちゃんとあそんであげたり、じぶんのことはじぶんでしたりしました。

かほちゃんは、はじめはねているだけだったけど、ちょっとずつおきているじかんがながくなりました。

おもちゃをにぎったり、わらったり、コロンところがったり、

たりして、みじかいあいだにどんどんできることがふえてびっくりしました。

かほちゃんは八月でーさいになりました。じぶんであるけるようになって、いっしょにかくれんぼをしてあそびます。

ぼくはいもうとができてうれしいです。これがぢもいっしょにあそびたいです。

おにいちゃん

LI校　一年二くみ

槙原　海

ぼくは、おにいちゃんとあそぶのが大すきです。おにいちゃんもぼくも、サッカーが大すきです。

おにいちゃんは、いろいろなことをぼくにおしえてくれます。たとえば、ゴールのまえで、シュートするかわりに、ほかのせんしゅ

にボールをパスするさくせんは、おにいちゃんにならいました。ゴールキーパーはぼくがジャンプしてトするとおもいます。そこでキックするまねをしてよこにパスして、ゴールにつなげます。

おにいちゃんは、ぼくにやさしくしてくれます。デザートにチョコレートケーキがでたとき、おにいちゃんは、チョコレートが大す

12×12

きなぼくに、じぶんのから
四ぶんの一そ。となにもい
わないでぼくのおさらにの
せてくれました。それから、
ぼくのけがをしんぱいして、
おもたいバッグをもってく
れます。

ぼくとおにいちゃんは、
よるいっしょにねます。ぼ
くは、それがとてもすきで
す。おにいちゃんがいなく
なったらさびしいです。

ぼくとお兄ちゃんは、
きどきけんかをします。
ちあいのけんかをしたことも
ありますぼくがもってい
たタブレットを、おにい
ちゃんがかってにとって
つかいはじめたときです。
けんかになって、ぼくは、
おにいちゃんをうってしま
いました。おにいちゃんも、
うちかえしました。さいご
には、おにいちゃんもぼく

も、いたくてないてしまいました。

ぼくは、もうけんかはしたくないとおもいました。

さびしいな、お兄ちゃんは大すきなのに。

「なかなおりしようよ。」

ぼくがいったら、

「ありがとう。」

といってくれました。

ぼくたちは、大きくなったらけんかしないとおもいます。

しおひがり

W校　一ねん一くみ

ごとう　まさひろ

ぼくはなつやすみに、日ほんで、おかあさんとおねえさんといとこでしおひがりにいきました。ぼくはしおひがりがなにかしりませんでした。おかあさんか「うみで、かいをとるんだよ。」とおしえてくれました。う

みにいくまではどうやって
かいをとるのかわかりませ
んでした。あと、水がつめ
たかったらどうしようかと
おもっていました。だけど
いってみたら、水はあまり
つめたくなかったです。そ
して水のふかさはひざのと
こらへんでした。ぼくはか
いをとるのに、さいしょは
くまでをつかったけれど、
つかれたからてをつかいま

した。一こめのかいをとったときびっくりしたけれど、うれしかったです。そしていえでおかあさんにみせにいって「ママかいとれたよ。」といいました。おかあさんは「すごいじゃん。」といって、あたまをなでなでしてくれました。そのあと、ぼくはちょっと

かいとこころでさがしました。でもそこではーこもみつけられませんでした。ニじかんで、ぼくは五こぐらいしかとれなかったけれどたのしかったです。とったかいの大きさは、大きなかいで手のひらぐらいでした。小さなかいの大きさは、こゆびをニほんあわせたぐらいでした。いえにかえってかいをおみそしるにしましし

た。かいはきがいだけれど、おばあちゃんに「いぶんでとったかいだからたべてごらん。」といわれました。ぼくはがんばってたべたけれど、おいしくなかったので、おかあさんにたべてもらいました。

あやのこと

上校　一ねん一くみ

山口大成

あやは女の子です。もうすこしで二さいになるぼくのいもうとです。あやは、おくすりをのむのがきらいです。ぼくは、「がんばれ！がんばれ！」と、よこでおどります。すると、がんばってのみます。あやは、ぼくとあそぶこ

とがすきです。おかあさんがの「たイスにひもをつけて二人であそびます。

「うんとこしょ、どっこいしょ。」

とい「って、ひもをひ「ぱります。あやはわらいます。

あやは、ぼくのいうことをよくききます。ようふくをきがえたり、い「っしょにあるくとき

「はーい。」

とおへんじします。ぼくは、
あやがぼくのことをすきだ
から、いうことをきくとお
もいます。
　あやは、ぼくがおんぶし
てはしることがすきです。
ぼくがしゃがむと、あやが
かたにのってきます。それ
から、ぼくははしります。
あやは、
「イエーイ、イエーイ。」
といいます。そして、わら

います。

あやは、ぼくを「タータ」とよびます。ぼくがおしえましたあやのさいのときから、いっぱいれんしゅうしました。一さいになったらいえました。ぼくは、うれしがったです。

あやは、あさ、ぼくの学校までできます。「タータ、バイバイ」。

といいます。ぼくは、あやとハイタッチをします。ハイタッチをすると、学校がたのしくなります。

ぼくが大きくなったら、あやを学校までおむかえにいって、ぼくがあやをまもります。あやがかわいくて、あやは二人いないからです。

あやは、ぼくのだいじなたからものです。